【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護学概論	１（３０）	１	第１学期	上南　雪野

目　　標

１．看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概念と、看護援助の本質について理解する
２．専門職としての看護の役割と看護活動の実際を理解する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護とは １）看護の本質、　２）看護の定義	講義・演習	
2	2	３）看護の歴史 西欧・アメリカにおける看護、日本における看護・医療の歴史	講義	
3	2	４）看護理論家とその考え ナイチンゲールの看護理論、「看護覚え書」	講義・演習（グループワーク）	課題学習
4	2	２．看護の役割と機能 １）看護ケアとは、２）看護実践と質の保証	講義	
5	2	３．看護の対象 １）看護の対象としての人間の理解	講義	
6	2	２）健康障害を抱えた人の理解 ３）看護の対象としての家族	講義	夏休みの課題闘病記を読みレポート
7	2	４．看護の専門性とキャリア開発 １）職業としての看護、２）看護職の養成制度と就業状況 ３）看護の業務拡大	講義	
8	1	４）看護職者の教育とキャリア開発	講義	
9	2	５．チーム医療と看護提供のしくみ １）看護サービス提供の場、２）看護をめぐる制度と政策 ３）看護サービスの管理、４）他職種連携と看護職の役割	講義	
10	2	６．看護実践のための理論 １）看護理論とは、２）看護理論に基づいた実践 ３）看護理論家とその理論（グループワーク） ※理論家を1人選び、理解を深める	講義・演習（グループワーク）	課題学習
11	2	看護理論家と看護理論（発表）	演習（発表）	グループワークでの学びレポート
12	2	看護理論の看護場面での活用	講義	
13	2	７．看護における倫理 １）看護倫理、２）倫理原則とケアの倫理	講義	
14	2	３）看護実践場面での倫理的問題、問題への取り組み	演習（グループワーク）	課題学習
15	2	８．広がる看護の活動領域 １）国際化と看護　２）災害時における看護	講義	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点、講義での提出物・課題レポート40点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（１）看護学概論　　：　医学書院 看護覚え書き　：　現代社
その他	看護学を学ぶ導入になります 個人ワークやグループワークを通して、内容の理解を深めていきます ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅰ	１（３０）	１	第１学期	①大上　寿子 ②宮下　和覧

目　　標

１．看護技術のもつ意義を理解し、看護実践の基礎となる安全を守るために必要な基本的知識と技術、態度を学ぶ
２．看護の共通基本技術であるコミュニケーション技術を習得する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護技術の概念 １）看護技術の特徴　２）看護技術の範囲 ３）看護技術を適切に実践するための要素	講義	担当者① 20時間
2	2	４）看護技術における安全・安楽①（活動・休息）	グループワーク	①
3	2	４）看護技術における安全・安楽②（清潔・食事・排泄）	グループワーク	①
4	1	４）看護技術における安全・安楽③	講義	①
5	2	２．感染予防 感染予防の基礎知識１ ①感染成立の条件　②標準予防策　③感染性廃棄物について	講義	担当者② 10時間
6	2	④感染経路別予防策　⑤洗浄・消毒・滅菌について	講義	②
7	2	感染予防の実際１ ①手指衛生　②個人防護用具（手袋・ゴーグル・ガウン）の着脱 ③感染性廃棄物の取り扱い	演習	②
8	2	感染予防の基礎知識２ ⑥無菌操作　⑦カテーテル関連血流感染について　⑧針刺し防止と対応	講義	②
9	2	感染予防の実際２ ④無菌操作の実際（・滅菌手袋の装着・滅菌鑷子と滅菌ガーゼの取り扱い） ⑤使用した器具の感染防止の取扱い	演習	②
10	2	３．コミュニケーション技術 １）コミュニケーションの意義と目的 ２）コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	①
11	2	３）関係構築のためのコミュニケーションの基本 ①接近的コミュニケーションの原理　②接近的行動と非接近的行動	講義 演習	①
12	2	４）効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴の技術　②情報収集の技術　③説明の技術	講義 演習	①
13	2	５）コミュニケーション障害への対応	講義 演習	①
14	2	６）看護場面でのコミュニケーション演習	演習	①
15	2	７）コミュニケーションの評価　　プロセスレコード	講義	①
16	1	終講試験		①

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（２）基礎看護技術Ⅰ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅱ	１（３０）	１	第１学期	①上田　彩子 ②恵美　徹生

目　　標

１．生理的ニードに対する日常生活援助技術である「環境、活動、休息、睡眠」の援助技術を習得する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．環境を整える援助技術 １）療養生活の環境 ①病棟の構造　②病室の構造と病床の条件　③病床の種類 ④環境調整の意義　⑤療養環境のアセスメントと環境調整の実際	講義	担当者① 10時間
2	2	２）ベッドメーキングの実際 ①リネン類の準備　②クローズドベッドの作成（下シーツの作成）	演習	①
3	2	３）臥床患者のシーツ交換と環境調整 ①臥床患者のシーツ交換の方法と留意点　②環境調整	講義	①
4	2	４）臥床患者のリネン交換の実際	演習	①
5	2	５）快適な療養環境の整備	演習	①
6	2	２．活動・休息の援助技術 １）基本的活動の援助 （１）姿勢と体位 ①よい姿勢　②良肢位　③体位の種類と特徴 ④体位の安楽性（ポジショニング）　⑤廃用症候群	講義	担当者② 20時間
7	2	（２）ボディメカニクス ①ボディメカニクスの概念　②ボディメカニクスの要素 ③ボディメカニクスの看護への活用 （３）体位保持の援助の実際 ①仰臥位　②側臥位　③ファーラー位　④セミファーラー位	講義	②
8	2	（４）体位変換とは ①体位変換の目的　②体位変換の留意点　③安静の目的と弊害	講義	②
9	2	（５）体位変換の実際　安楽な体位の調整 ①水平移動　②仰臥位から側臥位へ　③仰臥位から長座位 ④長座位から端座位　⑤端座位から立位	演習	②
10	2	（６）移動・移送の援助 ①移動・移動の援助（車椅子・ストレッチャー） ②歩行時の援助（杖・歩行器）	講義	②
11	2	（７）移動・移送の援助の実際 ①ベッドから車椅子への移動と移送	演習	②
12	2	（８）移動・移送の援助の実際 ②ストレッチャーへの移動・移送　③歩行時の援助（杖・歩行器）	演習	②
13	2	２）睡眠と休息の援助 （１）休息とは　①休息の意義　②休息の必要性 （２）睡眠とは　①睡眠に伴う生理的変化　②睡眠の種類とメカニズム ③睡眠を阻害する因子	講義	②
14	2	（３）睡眠と休息への援助 ①睡眠障害のアセスメント　②睡眠と休息を促す援助	講義	②
15	1	移動の技術	演習	②
16	1	終講試験		②

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験　40点　（筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅲ	１（３０）	１	第１学期	寺田　博子

目　　標
生理的ニードに対する日常生活援助技術である「清潔、衣生活」の援助技術を習得する。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．清潔の援助技術 １）清潔の援助の基礎知識 ①皮膚・粘膜の構造と機能　②清潔援助の効果 ③患者の状態に応じた援助の決定と留意点 ④洗浄料の種類と特徴	講義	
2	2	２．病床での衣生活の援助技術 １）援助の基礎知識 ①衣生活の意義　②被服気候　③衣生活を調整する能力のアセスメント ④病衣の選び方　⑤病衣・寝衣の交換	演習	
3	2	⑥ 寝衣交換の援助の実際：臥床患者の寝衣交換	講義	
4	2	２）全身清拭が心身へ及ぼす影響 ①全身清拭の目的と方法	講義	
5	2	３）全身清拭の実際 ①臥床患者の清拭の実際（顔・上肢）	演習	
6	2	②臥床患者の清拭の実際（胸部・腹部・背部・下肢・臀部）	演習	
7	2	４）陰部洗浄の援助技術 ５）洗髪の援助技術	講義	
8	2	６）臥床患者の陰部洗浄の実際（陰部モデルを使用）	演習	
9	2	７）洗髪の実際：臥床患者の洗髪	演習	
10	2	８）入浴の文化 ①入浴の生理　②入浴の効果と欠点、安全性 ③入浴・シャワー浴の援助技術	講義	
11	2	９）手浴・足浴の意義と目的　⑤手浴・足浴の方法と留意点 10）整容	講義	
12	2	11）手浴･足浴・整容（頭髪・顔面）の実際	演習	
13	2	12）口腔ケア	講義 演習	
14	2	臥床患者の清拭・寝衣交換	演習	
15	1	清拭・寝衣交換の技術	演習	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験　40点　（筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅳ	１（３０）	１	第１・２学期	①惠美　徹生 ②谷山　千賀子

目　　標
生理的ニードに対する日常生活援助技術である「食事、排泄」の援助技術を習得する。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．食生活の援助技術 １）食事援助の基礎知識 ①栄養状態のアセスメント　②食欲のアセスメント	講義	担当者① 12時間
2	2	③摂食・嚥下能力のアセスメント　　④摂食行動のアセスメント ⑤食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント ⑥食生活アセスメント　⑦おいしさ・文化を守る食生活のケア	講義	①
3	2	⑥医療施設で提供される食事の種類と形態 ２）食事摂取の介助	講義	①
4	2	摂食嚥下機能評価	講義	①
5	2	食事介助の実際 （患者誤認防止・食事内容の確認・食事環境の調整・体位調整）	演習	①
6	2	３）非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法　②中心静脈栄養法	講義	①
7	2	２．排泄の援助技術 １）自然排尿および自然排便の基礎知識 ①排泄の意義　　②排泄のメカニズム	講義	担当者② 18時間
8	2	③排尿のアセスメント・排便のアセスメント・移動動作のアセスメント	講義	②
9	2	２）自然排尿および自然排便の介助 （トイレ・ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ）	講義	②
10	2	自然排尿および自然排便の介助の実際 （尿器・便器・ポータブルトイレ）	演習	②
11	2	３）導尿 ①一時的導尿　②持続的導尿　③膀胱留置カテーテルの管理	講義	②
12	2	一時的導尿の実際	演習	②
13	2	４）排便を促す援助 ①浣腸　②摘便	講義	②
14	2	グリセリン浣腸の実際	演習	②
15	1	便秘改善のための看護ケア	講義	②
16	1	終講試験		②

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅴ	１（３０）	１	第１・２学期	晝間　梓

目　　標
対象を把握するために看護の共通基本技術であるフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護におけるヘルスアセスメント １）ヘルスアセスメントとは ①ヘルスアセスメントの意義と目的 ②ヘルスアセスメントに必要な技術　（問診・視診・触診・打診・聴診 ） ２）バイタルサインの観察 ①バイタルサインとは　②バイタルサインを測定する意義	講義	
2	2	③意識 ④体温測定：体温調整のメカニズムと変動因子、体温測定の方法	講義	
3	2	⑤脈拍測定：脈拍のメカニズムと変動因子、脈拍測定の方法、脈拍の観察 ⑥呼吸測定：呼吸のメカニズムと変動因子、呼吸測定の方法、呼吸の観察	講義	
4	2	体温測定、脈拍測定、呼吸測定の実際	演習	
5	2	⑥血圧測定：血圧のメカニズムと変動因子、血圧の観察、血圧測定の道具（血圧計、聴診器)、血圧測定の方法（触診法、聴診法）	講義 演習	
6	2	血圧測定の実際１（点検、マンシェットの装着、加圧、減圧）	演習	
7	2	血圧測定の実際２（触診法）	演習	
8	2	血圧測定の実際３（聴診法）	演習	
9	2	バイタルサインの観察　（体温、脈拍、血圧、呼吸測定）	演習	
10	2	３）フィジカルアセスメントの基礎知識 ①フィジカルアセスメントとは ②身体機能別アセスメント 呼吸系、循環系、消化系、感覚系、運動系、中枢神経系　など	講義	
11	2	胸部のフィジカルアセスメントの実際（胸郭の同定、視診、触診、聴診） 腹部のフィジカルアセスメントの実際 （腹腔内臓器の位置関係・腹部イグザミネーションの原則）	演習	
12	2	脳神経系のフィジカルアセスメントの実際 （意識状態、対光反射、バレー徴候、MMT、指鼻指試験）	講義 演習	
13	2	２．安楽の促進、苦痛の緩和のための援助 罨法（冷罨法、温罨法）	講義	
14	2	罨法（冷罨法、温罨法） 身体計測（身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲）	演習	
15	1	バイタルサイン測定	演習	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験　40点　（筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（２）基礎看護技術Ⅰ　：　医学書院 基礎看護学（３）基礎看護学技術Ⅱ　：　医学書院 看護がみえるvol.3　フィジカルアセスメント　：　メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅵ	１（３０）	１	第２学期	花村　一葉

目　　標
診療に伴う技術である与薬の技術を習得する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．与薬の基礎知識 １）薬物療法の目的と種類　２）薬物の作用・剤形と吸収経路 ３）薬物療法を受ける対象の心理　４）薬物療法が対象及び対象の生活に及ぼす影響 ５）薬物療法に関わる職種とその役割　６）薬物療法における看護師の役割 ７）薬物の管理　８）薬物療法による日常生活の調整 ９）正確な薬物療法の実施	講義	
2	2	２．経口与薬を受ける対象への援助 １）経口与薬の基礎知識　２）経口与薬とその特徴 ３）経口与薬の治療効果に影響を及ぼす要因 ４）与薬事故を防止するための留意点　５）薬の自己管理にむけた援助	講義	
3	2	３．経口与薬を受ける対象への援助の実際 １）自分で内服できない対象への与薬と観察	演習	
4	2	４．様々な与薬の方法：吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬	講義	
5	2	５．経皮、外用薬の与薬の実際・直腸内与薬の実際	演習	
5	2	６．注射を受ける対象への援助 １）注射の基礎知識　２）皮下注射の実施方法 ３）皮内注射の実施方法　４）筋肉内注射の実施方法 ５）静脈内注射の実施方法	講義	
6	2	７．筋肉内注射・皮下注射の実際 注射の準備の実際（薬液の吸い上げ）	演習	
7	2	筋肉内注射・皮下注射の実際（針刺し事故の防止）	演習	
8	2	８．点滴静脈内注射 １）点滴静脈内注射の基礎的知識　２）点滴静脈内注射の実施方法 ３）点滴静脈内注射を受ける対象の看護 ９．経静脈栄養 １）経静脈栄養法の種類　２）中心静脈栄養法の留意点	講義	
10	2	１０．点滴静脈内注射の実際	講義	
11	2	点滴静脈内注射の実際：輸液の準備、輸液セットの接続	演習	
12	2	点滴静脈内注射の実際：翼状針による点滴静脈内注射、輸液速度の調整	演習	
13	2	点滴静脈内注射の実際 側管からの静脈内注射	演習	
14	2	１１．輸血 １）輸血の基礎的知識　２）輸血の種類と管理 ３）輸血療法を受ける患者の看護	講義	
15	1	点滴静脈内注射の作成・投与	演習	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験　40点　（筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（２）基礎看護技術Ⅰ　：　医学書院 基礎看護学（３）基礎看護学技術Ⅱ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅶ	１（３０）	１	第２学期	①大上　寿子 ②村田　佳奈

目　　標
診療に伴う技術である診療・検査・処置に伴う技術を習得する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．診察・検査に伴う技術 １）診察・検査の目的 ２）診察・検査をうける対象の心理 ３）診察・検査時の看護師の役割 ４）診察時の援助方法	講義	担当者① 26時間
2	2	５）主な検査の概要と看護の要点：検尿、検便、喀痰	講義	①
3	2	５）主な検査の概要と看護の要点： X線検査、CT、MRI、超音波検査、心電図　肺機能検査	講義	①
4	2	５）主な検査の概要と看護の要点： 核医学検査、血液検査（動脈血、血糖測定）	講義	①
5	2	５）主な検査の概要と看護の要点： 穿刺の検査	講義	①
6	2	５）主な検査の概要と看護の要点 内視鏡検査	講義	①
7	2	５）主な検査の概要と看護の要点 血液検査（静脈血、静脈血採血の方法）	講義	①
8	2	６）採血の実際①（準備、駆血、血管の選択）	演習	①
9	2	６）採血の実際②（消毒、採血実施、止血、後片付け）	演習	①
10	2	６）採血の実施③（一連を通して）	演習	①
11	2	７）心電図検査の実際	演習	①
12	2	８）検査処置を受ける患者の看護・まとめ	講義	①
13	2	２．創傷管理 １）創傷処置 ２）包帯法 ３）褥瘡予防：褥瘡の基礎知識（同一体位の有害性と廃用症候群）	講義	担当者② 4時間
14	2	４）創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法の実際） ６）褥瘡予防援助の実際：体圧分散	演習	②
15	1	静脈血採血	演習	①
16	1	終講試験		①

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験　40点　（筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（２）基礎看護技術Ⅰ　：　医学書院 基礎看護学（３）基礎看護学技術Ⅱ　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護過程展開技術	１（３０）	１	第２学期	宮下　和覧

目　　標
１．看護を計画的に実践することの必要性とその展開技術を習得する ２．看護実践に必要な記録、報告について学ぶ

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1.看護を展開する技術 １）看護過程の概念：看護過程の基盤となる考え方（問題解決過程）	講義	
2	2	２）看護過程の各段階（ヘンダーソンの看護過程を用いて） ①アセスメント ・情報収集 ・アセスメントの枠組み：看護理論と看護過程	講義	
3	2	・情報の分析 ・全体像のとらえ方：全体像の把握	講義	
4	2	・全体像のとらえ方：関連図の意義と活用 ・看護過程の基盤となる考え方 （クリティカルシンキング・倫理的配慮と価値判断・リフレクション）	講義	
5	2	②看護問題の明確化（看護診断） ・看護問題の見極め、種類　　・優先順位 ・共同問題　　・看護問題リストの作成	講義	
6	2	③看護計画の立案 ・目標（期待される成果）　　・計画（O-P・T-P・E-P） ・クリティカルパスと標準看護計画　　・NANDA-NOK-NIC	講義	
7	2	④実施と評価 ・実施前の確認、調整　　・実施（報告・記録）　　・実施後の評価、修正	講義	
8	1	⑤看護記録と報告：看護記録とは、看護記録の管理と留意点、報告の目的	講義	
9	2	２．看護過程の展開の実際　（１）　（ヘンダーソンによる 14 の基本的ニーズ） ①事例提供　　②情報収集、情報整理、情報分析：GW ＊発表：事例のアセスメントについて	講義	
10	2	看護過程の展開の実際　（２）　　＊発表：事例のアセスメントについて ③全体像の作成：GW	講義	
11	2	看護過程の展開の実際　（３）　　＊発表：全体像について	講義	
12	2	看護過程の展開の実際　（４） ④看護問題リストの作成：GW　　＊発表：看護問題について	講義	
13	2	看護過程の展開の実際　（５） ⑤看護計画の立案：GW　　＊発表：看護計画について	講義	
14	2	看護過程の展開の実際　（６） ⑥実施と評価：ロールプレイ　　＊SOAP での記録の実際	演習	
15	2	看護過程の展開の実際　（７） ⑥実施と評価：ロールプレイ　　＊発表：評価、修正	演習	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（２）基礎看護技術Ⅰ　：　医学書院 基礎看護学（３）基礎看護学技術Ⅱ　：　医学書院 看護の基本となるもの　：　日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院 看護過程に沿った対象看護　：　学研
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※臨床看護論	１（３０）	２	第１学期	①田中　雅子 ②川端　朋加 ③榮　圭子

目　　標

１．治療別及び主要症状に応じた対象を理解し、その状態のアセスメントと必要な援助を理解する
２．看護場面で活用するための臨床判断の基礎的能力を身につける

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．化学療法を受ける患者の看護 １）化学療法における看護師の役割 ・がんの病態、検査　　・抗がん剤の種類と投与方法 ・有害事象　　・日常生活援助	講義	担当者① 4時間
2	2	２）化学療法を受ける患者への援助の実際 ・事例を用いて	講義 演習	①
3	2	２．放射線療法を受ける患者の看護 １）放射線療法における看護師の役割 ・放射線療法の目的　　・放射線の種類と感受性 ・有害事象　　・日常生活援助	講義	担当者② 4時間
4	2	２）放射線療法を受ける患者への援助の実際 ・事例を用いて（線量計・プロテクター等）	講義 演習	②
5	2	３．主要症状別に基づく看護 １）痛みのある患者の看護 痛みの種類とメカニズム、痛みを示す患者の観察とアセスメント	講義	担当者③ 22時間
6	2	腹痛のある患者の観察とアセスメント	講義 演習	③
7	2	２）呼吸困難のある患者の看護 呼吸困難のメカニズム、呼吸困難を示す患者の観察とアセスメント	講義	③
8	2	呼吸障害を示す患者の呼吸を整える技術 ・換気の促進：体位の工夫　　・薬剤の投与：吸入 ・気道の確保：排痰援助、吸引（鼻腔口腔吸引、気管内吸引） ・酸素の供給：酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い	講義	③
9	1	呼吸障害を示す患者の呼吸を整える技術の実際① ・酸素の供給：酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い ・換気の促進：体位の工夫	演習	③
10	2	呼吸障害を示す患者の呼吸を整える技術の実際② ・気道の確保：排痰援助、吸引（鼻腔口腔吸引、気管内吸引） ・薬剤の投与：吸入	演習	③
11	2	４．臨床判断の考え方 １）臨床推論と臨床判断について ２）臨床判断モデルについて	講義	③
12	2	３）看護師が行う臨床推論と判断の思考過程	講義	③
13	2	臨床判断演習～事例を用いたグループワーク～	講義 演習	③
14	2	臨床判断演習～事例を用いたグループワーク～	講義 演習	③
15	2	臨床判断演習～発表と振り返り～	講義 演習	③
16	1	終講試験		③

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（３）基礎看護技術Ⅱ　：　医学書院 基礎看護学（４）臨床看護総論　：　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院 看護がみえるvol.3　フィジカルアセスメント　：　メディックメディア
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護研究	１（３０）	２	第１・２学期	井下　美恵

目　　標
１．研究の基礎を学び、看護実践を科学的に展開する基本的姿勢を身につける ２．事例を通して看護を振り返り、看護に必要な研究的態度を身につける

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護研究の基礎 １）看護実践における研究の意義　２）研究に関する倫理	講義	
2	2	３）看護研究の目的と種類 ①研究デザイン	講義	
3	2	４）研究のプロセス ①研究動機の明確化　②文献探索　③研究動機の明確化	講義	
4	2	４）研究のプロセス ④研究目的、研究方法、研究計画書、データ収集と分析	講義	
5	1	５）研究論文のクリティーク（査読）	講義	
6	2	６）研究計画書作成：グループワーク	演習	
7	2	６）研究計画書作成：グループワーク	演習	
8	2	６）研究計画書作成：発表	演習	
9	2	２．　事例研究（ケース・スタディ） １）ケーススタディとは ２）ケーススタディの実際と発表 ①ケーススタディの進め方	講義	
10	2	②研究計画書の作成　　③文献検索（文献カードの確認）	講義	
11	2	④論文の構成　　⑤評価の視点　　⑥抄録の作成 ⑦発表準備と方法　　⑧講評	講義	
12	2	ケーススタディ準備・文献検索・原稿作成	演習	
13	2	ケーススタディ準備・文献検索・原稿作成	演習	
14	2	ケーススタディの発表・まとめ	発表	
15	2	ケーススタディの発表・まとめ	発表	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	100点（筆記試験30点、研究計画書グループで作成30点、ケーススタディ40点） ケーススタディの発表までの過程（研究計画書作成から発表まで）で総合的に評価 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	看護研究　step　by　step　：　医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　：　照林社
その他	研究計画書の作成段階から発表までを通して個別指導を受ける ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である